

---

# 一冊の本

紅花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一冊の本

### 【Nコード】

N0137L

### 【作者名】

紅花

### 【あらすじ】

図書室で小説を書く、先生とは名ばかりの同級生。そして変わっている同級生を慕う僕。

暇を持て余す、僕の日常。

## 僕の日常（前書き）

初投稿です。

拙い文ですがよろしくお願いします。

## 僕の日常

キンコンカーンコン

長かった授業が大きな音で終わりを告げた。

僕は早々に荷物を片付けて、先生の元に向かうことにしよう。

先生ってというのは、職員室に蔓延っている大人のことではなく、同級生のことだ。

もちろん先生といのは本名ではない。

いわゆるニツクネームというやつ。

ありえない勘違いがないように言うておくことにしよう。

って、僕はいつたい誰に言っているんだ。

頭の中に小人でも居るのだろうか。

言うておくが、けっして僕の頭は花畑ではない。

話がそれってしまった。誰の責任かはあえて言及しないことにしよう。

はて、なんの話をしていたか……。そう、先生のことだ。先生は眼鏡が良く似合う人で、まあ、なんとというか変わっている。妙に達観しているというか、理屈っぽいというか。

とにかく同級生とは思えない精神をしているお方だ。

まあ、でも本物の教職員なんかよりずっと尊敬できる。

それで、趣味は本を書くこと。

などと頭の中で灰色の脳細胞が思考に浸っていると、体は勝手に先生の居住区たる図書室に着いてくれている。

僕は自分の頭に軽く不安を覚えたけど、図書室の中に入ることにし

た。

相変わらず立て付けの悪い戸だ。

力を込めて不快な音とともに横にスライドさせた。

変だ。鍵は開いているのに誰もいない。

でも鍵が開いていたということは、先生は来てるはずだ。

僕は不思議に思いなが室内を探してみることにする。

ああ、いた。

入り口から死角になる窓際、そこで先生は退屈そうに本を読んでいた。

僕は軽く安堵して

「先生、もつとわかりやすい所に居てくださいよ。居ないかと思っ  
た。」

「ん？ああ、キミか。鍵が開いているんだから居ることぐらいわかる  
だろ。」

非難を示す僕に、先生は呆れてるようだ。

「そうですね。場所の問題ですよ。」

「そうか。悪かったな。」

全く悪びれることなく流されてしまった。

すこし悲しい。

「ていうか先生、来るの早すぎですよ。授業終わったばかりです  
よ。」

「まあ、暇だからな。それにそういうキミも直ぐ来てるじゃないか  
なにが面白いのか、先生は少し楽しそうに笑う。

「それは僕の楽しみですからね、先生と話すの。それにまた、読ま  
せて貰いたいですし」

「変わってるなあ、キミは」

どの口が言ってるんだ。

「まあ、リクエストとあらば早々に渡すでしょう」

そういつて先生は傍らに置いてあった鞆から原稿用紙を取り出して僕に差し出した。

この原稿用紙が先生の趣味で書いている小説で、僕の楽しみなのだ。

どうでもいいことだけど先生の鞆は過疎化が激しく、ペラペラだ。

この人、何しに学校に来てるんだ？

僕が下らない疑問を感じいると、先生が怪訝な顔つきでこっちを見ているのに気がついた。

読まないのか？というように原稿用紙を突きだしてたのだ。僕は慌てて受けとりながら

「読みます、読みます。今回はどんなですか？」

「ん？そうだなあ…。言うなれば人類愛か」

「人類愛？」

先生の聞きなれない言葉に思わず聞き返していた。

先生は急かすようにだんまりだ。

先生は黙しているので、遠慮なく読むことにしよう。

しかし、先生が人類愛？一体どういう内容なのか、興味が湧きおこされた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0137/>

---

一冊の本

2010年10月9日20時38分発行